

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
領域開拓プログラム最終評価結果表

課題	D：嗜好品の文化的・社会的意味
研究テーマ名	「嗜好品」とは何か？—嗜好品に関する学際的研究と文献データベース構築を通して
研究代表者	松原 豊彦
所属機関・部局・職	立命館大学・食マネジメント学部・教授
研究成果の総合評点：B	
研究成果に係る所見	
<p>「嗜好品」とは何かについて、人文学・社会科学とともに自然科学の分野において検討し、時間軸・空間軸における嗜好品の偏差を鳥瞰図として描く」という本計画の当初目的に関する成果が報告書からは不明である。計画の柱である学術データベースの構築も文献・情報の収集とデータ化にとどまっており、所期の目的を達成できていない。一定の研究成果が上げられてはいるが、多数の研究分担者の参加にもかかわらず、研究成果は一部の分担者のものに限られている。多様な研究者の協働が適切に行われたのか疑問が残る。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、期待どおりではないが一定の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い